

『専門日本語教育研究』第25号 論文賞

「アスリート留学生のための日本語教育の展開
—日本人部員へのインタビュー調査の質的分析から—

正宗 鈴香（大東文化大学）

〔授賞理由〕

本論文は、スポーツ推薦型選抜入学試験等で日本の大学に進学したアスリート留学生に対して、どのような日本語教育が考えられるか考察したものである。アスリート留学生は近年増加しているが、その特性に注目した日本語教育についての研究は少ない。研究手法としては、バスケットボール部の日本人部員4名に対して半構造インタビューを実施し、SCAT手法を用いて解析している。その結果、次の5つの上位のカテゴリーが得られた。〔1〕コミュニケーション場面、〔2〕協働意思、〔3〕部の成員としての自覚、〔4〕主体性・自己成長・技術力向上、〔5〕日本語。

結論としては、アスリート留学生が「専門（競技）の分野での活動を可能にする」レベルは、メンバーと共に成長できるための言語行為でのインターアクション能力を有するレベルであり、専門日本語を学ぶ目的は、強いチームを作る原動力となる競技日本語を習得し、お互い成長できる立場でチームを作り上げていくこととしている。さらには、「スポーツ日本語」という新しい領域の日本語教育の開発には、抽出できたカテゴリーを構造化し、教育内容や教育方法を検討していくことが足がかりになるとしている。

本論文は趣旨・手続き・結論が明快である。「アスリート留学生」への「スポーツ日本語」の教育を専門日本語教育の中に位置づけ、狭い意味での日本語教育ではなく、受入れの社会的文脈、高校から移行する学部レベルの教育の位置づけ、日本語教育との関連づけを踏まえた統合的な教育として捉え、それを主張する根拠も明確である。小規模の質的分析ではあるが、チームスポーツにおけるコミュニケーション研究とも関連するもので、大学における専門日本語教育の現場に有益な示唆を示したものであると評価できる。

以上のことから、本論文を専門日本語教育学会論文賞の受賞対象論文としてふさわしいものと判定した。

受賞に際しての所感

正宗 鈴香

この度は論文賞に選出いただき大変光栄に存じます。査読や賞選考に関わった先生方に厚くお礼申し上げます。また、調査に協力してくれた学生、議論を重ねてくださった先生方や監督のお力がなければ達成できませんでした。この場をお借りして感謝申し上げます。今回受賞の対象となった論文は、アスリート留学生の日本語教育構築に向けての基礎的研究です。アスリート留学生の日本語教育を担当するようになり、特有な環境下で大学生活を送る留学生に求められることを模索するなか、専門日本語教育に関する数々の論文に出会いました。そこに共通する固有の文脈の中で学習者を捉えるという視座を得たことで、ことばと競技、競技専門家と協力して得られる日本語教育の方向性を私なりに見出すことができました。本研究はその第一歩であり教育内容にどう繋げるかが今後の課題となります。この論文を評価頂いたことを支えに、この領域を充実させていけるよう精進して参ります。

『専門日本語教育研究』第25号 論文賞

「Web教材『外国人のためのわかりやすい医学用語』の開発」

三枝 令子（元専修大学）、稲田 朋晃（十文字学園女子大学）、品川 なぎさ（防衛大学校）

丸山 岳彦（専修大学）、松下 達彦（国立国語研究所）、遠藤 織枝（元文教大学）

山元 一晃（金城学院大学）、庵 功雄（一橋大学）、吉田 素文（熊本大学）

鈴木 知子（国際医療福祉大学）、赤津 晴子（国際医療福祉大学）

桜井 亮太（国際医療福祉大学）、矢野 晴美（国際医療福祉大学）

〔授賞理由〕

本論文でも述べられているように、日本では、最近まで外国人医学部生の組織的な受け入れが行われてこなかったため、医学分野の専門日本語教材の開発も非常に限定的であった。その中で、日本語非母語話者で医師国家試験合格を目指す学生への支援を目的としたWeb教材「外国人のためのわかりやすい医学用語」の開発プロセスを報告した本論文は、新規性があるだけでなく、専門日本語教育における教材開発の一つの事例として、非常に有益な知見を提供するものとなっている。教材開発の各段階の作業（データ作成の方法、サイトの機能設計等）、教材の機能（構成、使用方法等）、開発体制づくり（異分野の研究者との協働、出版社からの協力等）、利用環境整備（説明会開催、アンケート調査等）、と本論文で記述された広範な内容は、今後同様に教材を開発しようとする者にとって大いに参考になる情報であると言える。

「5. 開発上の困難点」で取り上げられている、英語の医学用語の読み方、日本語の医学用語の切れ目といった作業上の問題は、事前に予測するのは困難で、実際に開発に取り組んでみて初めて見えてくるものだろう。また、「7. 意義」においては、開発者自身が開発プロセスにおいて何をしたかということだけでなく、医学、言語コーパス、日本語教育のそれぞれの専門家の協働が必要だったこと、出版社からの医学書のテキストデータの提供が重要であったこと等、開発体制づくりに関する言及もあり、その意味でも、本教材の開発プロセスの詳細が広く共有されることは大変意義深いと考えられる。

「6. 課題」において、今後の教材で扱う内容および機能の拡充の可能性が述べられているが、実際の学習場面において、同教材のどのような内容がどのように学ばれているのか、学習者にどのような機能が必要とされるのかという検証を含め、今後の発展にも大きな期待が持てる。

以上のことから、本論文を、専門日本語教育学会論文賞の授賞対象論文としてふさわしいものと判定した。

論文賞受賞に際しての所感

三枝 令子

「専門日本語教育学会論文賞」を授与していただき、ありがとうございます。本研究では、2017年から受け入れが始まった外国人医学部生のため、当初数人の日本語教師でどういう支援ができるかを考えはじめました。外国人医学生のための教材は当時も今もあまりありません。日本語ゼロの状態から出発し、6年後に医師国家試験に合格するという条件のもとでのかれらの大変な努力を目にし、助けになる教材を作りたいと思いました。途中いろいろな問題が生じましたが、目的が明確だったため、みんなでぶれることなく教材作成に取り組みました。作成に際して、コーパスの専門家、また、医学生の、ひいては医学のことばに関心を持つ医師の協力は、大変心強くもあり、この研究にとって大きな助けでした。今後は、今回作成したホームページの改良とともに、医学生の話したことばについても研究を進めたいと思っています。励みとなる賞をいただいたこと、心から感謝いたします。